

指導方法等の改善計画について〔国語科〕

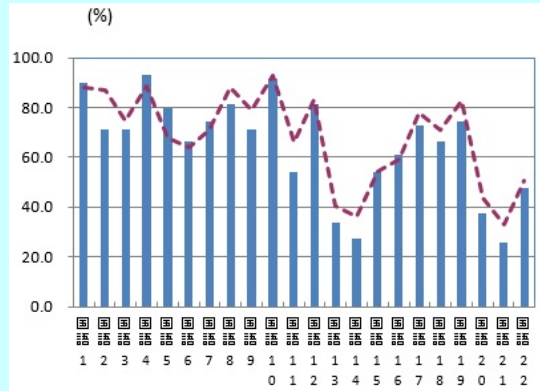
東広島市立下黒瀬小学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 64.8%, 県 68.0%)

領域別平均通過率



教科別の平均通過率



本年度の結果について

国語科の結果において、タイプⅠは68.9%、タイプⅡは46.2%の通過率である。ことわざ、漢字などの言語事項については、8割以上の通過率であったが、ローマ字は7割であった。この結果から、基礎的・基本的な学習内容は定着していると考えられるが、教科で学習した知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力などは課題が残っている。また、最後の問題の無答率が15.3%と多いのは、長文を読むスピードが遅いことが原因と考えられる。タイプⅠの「読むこと」叙述を基にした想像の情景33.9%と記述27.1%と低い。「タイプⅡでは、「読むこと」情報の取り出しでは、37.3%、「書くこと」情報の取り出し・情報を関連付けた記述では、25.4%と低く、多くの情報の中から必要な情報を取り出したり、取り出した情報をもとに記述したりすることに課題があると考えられる。

重点課題

- 【課題1】 情報を取り出す力、問題文の意図を読み取る力や正確に早く読むこと、読み取ったことを正確に記述することに課題がある。
- 【課題2】 叙述を基にして想像で情景を読み取ることと読みとったことを自分の考えとして記述していくことに課題がある。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

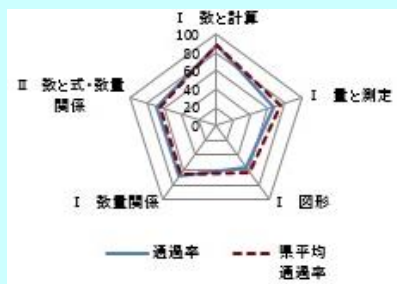
- 【課題1】 説明文の指導においては意味段落毎の見出しを付けたり、要点まとめをしたりすることを通して情報を取り出す力をつける。また、取り出した情報を使って、短文にまとめたり、まとめたことを正確に話せるような活動を行ったりする。(4年「わたしの考えたこと」3年「調べて書こう、私のレポート」の単元では重点的に行う。)
- 【課題2】 物語文では、情景や人物の気持ちだけでなく時間の経過や場面の変化なども合わせて、正確に情景を読み取らせるようにする。説明文では、記述を正確に読み取らせるとともに記述に対する自分の考えをまとめたり、記述を使って筆者の考えをまとめたりすることができるような場面を設定し、指導する。社会科や理科等の他教科においても資料の読み取りだけでなく考察したことをまとめる取組をする。(4年「世界一美しいぼくの村」3年「サーカスのライオン」の単元では重点的に行う。)

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	5年生 H29基礎・基本答え解説	4・5年生 単元末テスト (読む)		5年生 単元末テスト (読む)	5年生 H26全国学力 (読む)	5年生 H27全国学力 (読む)	5年生 H28全国学力 (読む)
目標値		80%		82%	70%	72%	75%
実施後数値							

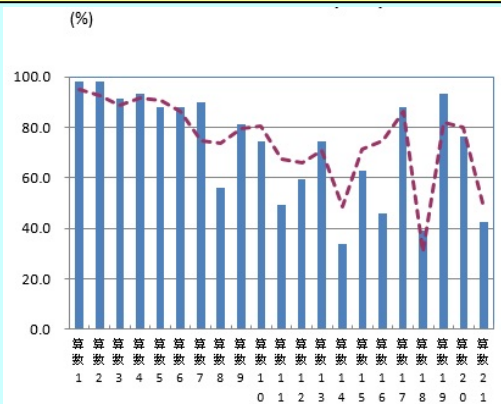
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		4・5年生 単元末テスト (書く)	4年生 H25基礎・基本タイプⅠ 5年生 H28基礎・基本タイプⅡ		4年生 H26基礎・基本 5年生 H26全国学力 (書く)	4・5年生 単元末テスト (書く) 5年生 H27全国学力 (書く)	4年生 H27基礎・基本 5年生 H28全国学力 (書く)
目標値		80%	4年生 60% 5年生 50%		4年生 70% 5年生 70%	単元末テスト80% 5年生 72%	4年生 75% 5年生 75%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 72.6%, 県 74.3%)

領域別平均通過率



設問1の平均通過率



本年度の結果について

算数の結果において、全体は72.6%、タイプIは74.0%、タイプIIは67.8%の通過率となっている。この結果から基礎的・基本的な学習内容は定着していると考えられるが、学習で身に付けた知識・技能を活用したり、自分の考えにつなげたりする力に課題が残っている。領域別で見ると、タイプIは「数と計算」が95.0%、とおおむね定着が見られる。一方、「数量関係」が67.5%、「量と測定」は65.4%、「図形」は56.1%と、タイプIの通過率を大きく下回っている。また、平行四辺形の判断する力が33.9%で、十分に定着しているとは言えない。タイプIIは、特に二つの折れ線グラフの関連づけて考える力が、39.0%と低い。これらのことから、学習したことを学習の様々な場面や実生活で活用することに課題があるといえる。

重点課題

- 【課題1】 平行四辺形の判断 (33.9) 分数の意味と表し方 (55.9), 複合図形の面積 (49.2), 一つの式で表す (45.8), 角の測定 (59.3) が十分に定着できていない。
- 【課題2】 二つの折れ線グラフの関連づけて考える力 (39.0) 事象の解釈と根拠の解説 (42.4) が弱い。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

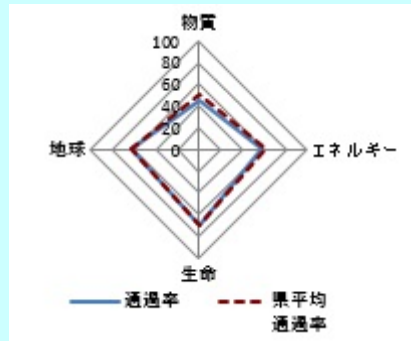
- 【課題1】 パワーアップタイムの時間を使って、4年生までの内容の復習を行っていく。同じ内容のものを、定期的に繰り返し行い、5年生終了時まで定着を図っていく。また、授業の中で既習事項として関連づけ、ポイントをおさえる。課題に関する学習のポイントを、学級の中に掲示し、いつでも振り返りができるようにしておく。(4年「面積の測り方と表し方」「角の大きさ」「垂直と平行と四角形」の単元では重点的に行う。)
- 【課題2】 表やグラフが出てくる場面では、グラフと関連づけて、計算をしたり、自分の考えを発表させたりする活動を行う。その際、グラフからどのようなことが分かり、そこからどのように答えを導き出したのか、筋道を立てて考えさせ、設営できるように指導する。また、他の児童と考えの交流をして、自分の考えと違う所を見つけさせ、考えをより深める活動を行っていく。(4年「折れ線グラフと表」の単元では重点的に行う。)

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	5年生 H29基礎・基本答え解説	4・5年生 前期末テスト	5年生H26全国学力 4年生H26基礎・基本	5年生H27全国学力 4年生H27基礎・基本		5年生H28全国学力 4年生H28基礎・基本	後期末テスト
目標値		83%	5年生 72% 4年生 70%	5年生 75% 4年生 72%		5年生 80% 4年生 75%	83%
実施後数値							

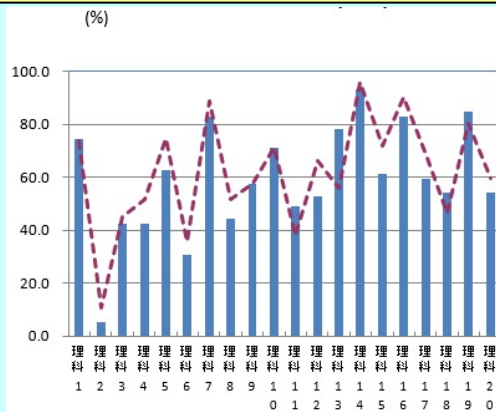
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	5年生 H29基礎・基本答え解説			5年生H26全国学力 4年生H26基礎・基本	5年生H27全国学力 4年生H27基礎・基本	5年生H28全国学力 4年生H28基礎・基本	
目標値				5年生 70% 4年生 70%	5年生 72% 4年生 72%	5年生 75% 4年生 75%	
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 59.2%, 県 61.7%)

領域別平均通過率



教科別平均通過率



本年度の結果について

理科の結果において、全体は59.2%、タイプIは70.0%、タイプIIは46.0%の通過率となり基礎的・基本的学習は定着しているとはいえない。

領域別では、「エネルギー」(57.3%)、「生命」(66.8%)、「地球」(63.1%)「物質」(41.0%)

「物質」領域の適切な検証方法の選択(5.1%) 予想の根拠、仮説に基づいた実験結果の予想(42.4%) 「エネルギー」領域 日光を重ねたときのあたたかさ(30.5%) 並列つなぎの回路のつなぎ方(44.1%) 「生命」領域の虫眼鏡の使い方(49.2%)

重点課題

【課題1】

物質領域の適切な検証方法の選択(5.1%)をはじめ、予想の根拠(42.4%) 日光を重ねたときのあたたかさ(30.5%)と予想や根拠を文章で記述する問題の正答率が低い。

【課題2】物質領域の「適切な検証方法の選択」(5.1%)及び並列つなぎの回路のつなぎ方(44.1%)の設問の正答率が低かった。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】

課題解決的に学習が出来るよう単元全体を通して授業を計画、展開していきながら、児童一人一人が、事象を説明できるようにしていく。また、学習のまとめの時には実験結果と自然の事象とを関連させて考えたことを、図などを使って視覚的に分かりやすくまとめさせる。

【課題2】

模型等を使ったシミュレーションを行い、一人一人が体験を通して事象を理解する授業を行っていく。その際実際に観察したこととシミュレーションを関連づけて考えさせることを大切にしていく。(4年「電気のはたらき」「ものの温度と体積」の単元では重点的に行う。)

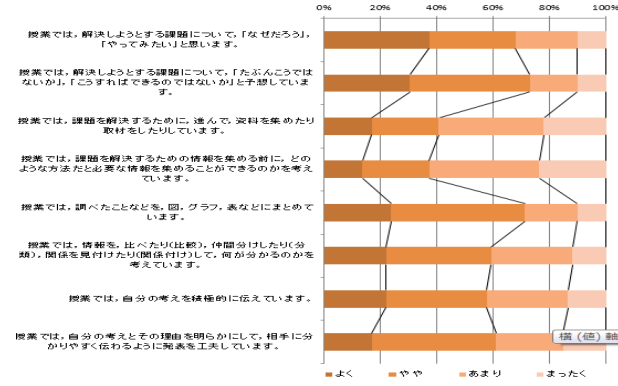
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	5年生 H29基礎・基本答え解説	4・5年生 前期末テスト	5年生H24全国学力 4年生H26基礎・基本		5年生H27全国学力 4年生H27基礎・基本	4年生H28基礎・基本	後期末テスト
目標値		83%	5年生 75% 4年生 70%		5年生 80% 4年生 75%	75%	83%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	5年生 H29基礎・基本答え解説			5年生H24全国学力 4年生H26基礎・基本	4年生H27基礎・基本	5年生H27全国学力 4年生H28基礎・基本	後期末テスト
目標値				5年生 70% 4年生 70%	70%	5年生 75% 4年生 73%	83%
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

(1) 生活・学習

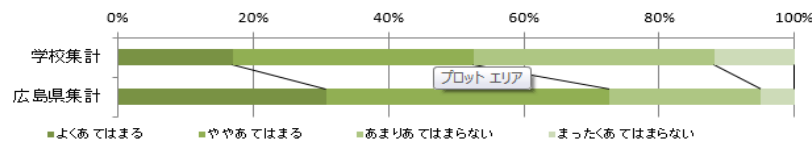
「課題発見・解決学習」(1)



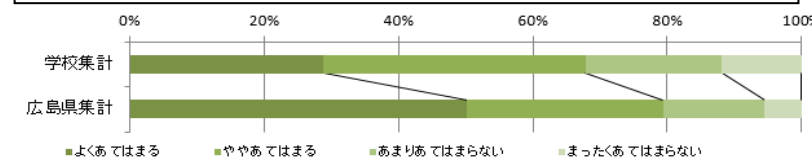
児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
自分で勉強の計画を立てることに課題がある。 (38.3%) 授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりすることなど情報の収集に課題がある。 (36.7%)	与えられた宿題のみをこなすのではなく、自主勉強では、自分に必要な課題を考えさせ、自分のめあてを明確にもたせて取り組むようにさせる。 課題を解決するために、どんな資料が必要か、どうやって集めたらよいか、どこにどんな取材をしたらよいかを考えさせる。	5	70%	児童アンケート調査	3月		

(2) 教科

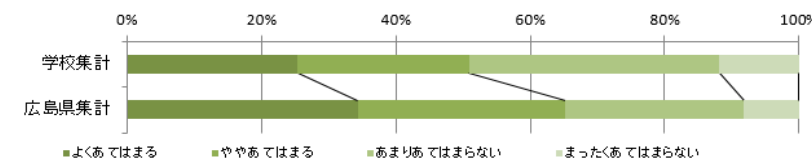
国語の授業では、伝えたいことの中心がうまく伝わるように、話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしています。



算数の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのかを考えたりしています。



理科の授業では、自分の考えを周りの人に説明したり発表したりしています。



	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	国語の授業では、伝えたいことの中心がうまく伝わるように、話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりすることに課題がある。 (51.7%)	相手を意識した話し方を日常的に行っていく。自分の考えを話す場を多く設定し、話すことに慣れさせるとともに、自信をもたせる。	5	70%	児童アンケート調査	3月		
算数	算数の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのかを考えたりすることに課題がある。 (68.3%)	児童の疑問を課題にとりあげ、授業後に解決できたという実感を持たせるよう、また、日常生活と学習がつながるように課題発見、解決学習に取り組み、実生活と結びつけて考える場を設定する。	5	70%	児童アンケート調査	3月		
理科	理科の授業では、自分の考えを周りの人に説明したり発表したりすることに課題がある。 (50.0%)	自分の考えをまとめ、メモやノートに書いて、周りの人に説明したり、発表させたりする場を設定する。	5	70%	児童アンケート調査	3月		